

中 高年の婚活が活発だ。背景には熟年離婚や生涯未婚率の増加がある。「人口動態統計」によれば、50代の離婚件数は、2014年は1990年当時の2倍以上。50歳時点で一度も結婚したことがない生涯未婚率は、直近調査の2010年時点で男性20.1%、女性10.6%。独身を貫いてきた人々でも、人生後半に向けて改めてパートナーの必要性を考える人は男女とも増えている。「パートナーを求める動きが特に活発になったのは、東日本大震災以降です」と、中高年の結婚情報サービス、茜会のカウンセラー立松清江さん。茜会ではこの5年で会員が1.3倍に。楽天グループの結婚相談所オオネットが13年からシニアコースを開始するなど、新規参入する結婚情報サービス会社も

増えている。

どんなサービスが受けられるのだろう。会員になるには事前登録が必要で、通常、独身を証明する書類や最終学歴などの公的書類の提出が求められる。登録が済むと、会員のなかから希望条件に沿う人の紹介書が、毎月一定数発行され、一方が会ってみたいと思えば、し、先方が同意すれば、名前などがお互いに明かされ、引き合われる。いわゆるお見合いだ。条件が合致しやすく、照会が多い人は、自分に送られてくる紹介書+aのチャンスが生まれる仕組みだ。その間のマッチングや情報のやりとりをコンピュータで行うか、カウンセラーが関わり人間が行うかは会社によって異なる。

最近、人気が高まっているのは、こうした会社が主催する婚活パーティだ。かしこまらずにもっと多くの会員に会ってみたいという要望に応え、サロンパーティや食事会、ハイキング、大規模なクリスマスパーティまで、会員向けのイベントが盛ん。例えば茜会では年間約300回開催。小規模なパーティなら7割近くが紹介書の交換



茜会が会員向けに行っているカジュアルなパーティ

再婚活活虎の巻

敏腕結婚カウンセラーに教わる

熟年離婚を経験した人や伴侶に先立たれた人、結婚未経験者など、人生後半戦を新たなパートナーと歩みたいと考える人は増えている。現場を良く知る結婚カウンセラーに最新事情と成就のポイントを聞いた。

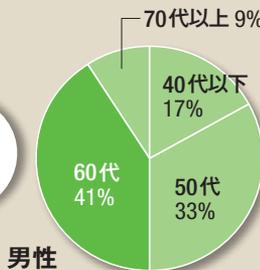
文 中城邦子

中高年向け結婚情報サービス利用者動向

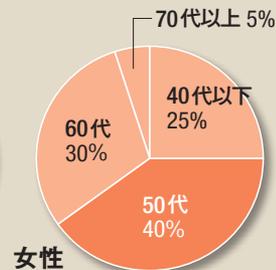
(茜会の会員内訳。2016年4月時点)

▶ 利用者の年代

男性は60代、女性は50代が最多



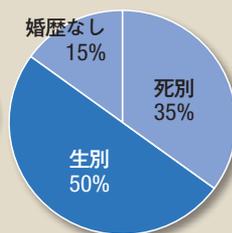
男性



女性

▶ 60代以上の婚歴

半数が離婚経験者



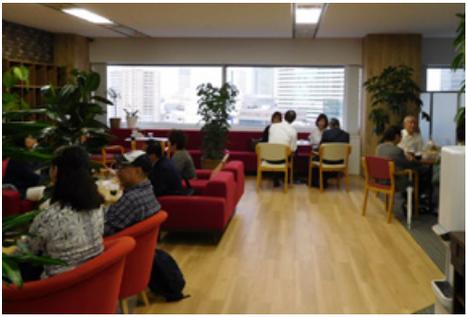
中高年婚活の中心は50~60代。現時点では利用者の半数が離婚経験者だが、今後増えると見込まれているのが、婚歴なしの人。生涯未婚率は20年前の約3倍になっており、今後も増加傾向が予想されている。

に至っているという。

週末婚や事実婚からスタートするケースも

「一般的に男性は、5〜12歳ぐらい年下で、子供がいない女性を望む傾向があり、女性は年齢が近く、経済的基盤がしっかりしている男性を望むことが多い。男女ともに共通して気にするのは、親の介護や子どもの有無など家族問題、経済状況です。ただ、条件へのこだわりすぎは、出会いのチャンスを減らしてしまう」と立松さん。

例えば男性が若い女性にこだわっても、若い部下と仕事を頑張ってきたキャリア女性は気持ちも若い。年が離れた年配男性は、敬遠しがちというミスマッチが起きる。さらに、中高年は人生経験が長い分、背負っているものも多い。



パーティはお見合いより気軽に参加できるのが人気

中高年向け婚活サービスにかかる費用はどれくらい？

マッチング情報+お見合いまでを行う情報サービス会社の場合、一般的に登録料と事務手数料で3万〜5万円、月会費は月の紹介2〜3名なら1万円前後。一方、成婚まで面倒をみる会社の場合、初期費用10万円以上、成婚料20万円などで金額にも幅がある。いずれの場合もお見合い申し込みは別途数千円。

子供たちに配慮し、婚姻届けを出さない事実婚や、お互いに自宅で暮らしながらの通い婚とするケースもある。結婚や入籍だけをゴールと決めずに、まずは、広く出会いの機会を持つことが肝心だ。また中高年の婚活は登録期間が短く、希望するような出会いがなければ、1〜2年であきらめてしまいう人も多いというが、まずは、下の虎の巻を参考に、条件やプロフィールを見直してみてもいい。「少し条件を緩和したり、写真や趣味の打ち出し方を変えたりするだけで、紹介書の印象は大きく変わります。会ってみようという引き合いが増えるケースもしばしば。実際に会ってみなければ始まりませんので、できるだけ機会を増やし、気持ちに寄り添い合える相手を見つけていただきたいですね」。

一 入籍をゴールにしなくていい

長年の間に行き着いた生活スタイルを壊したくないという考えや、経済状況の差、遺族年金の受け取り資格の問題で多くの入籍を望まないケースもある。まずは事実婚や週末婚で、リズムをつかみ機が熟してから入籍する方法もある。

二 相手の婚歴や家族関係を気にし過ぎない

相続や墓の問題、親の介護、子供の反対など、中高年の婚活は付随条件が複雑でネックとなりやすい。しかし、そのすべての問題がない人など、ほとんどいない。こだわり過ぎてマッチングの母数を減らすより、間口は広く考える。

三 外見、身だしなみを甘く見てはいけない

猫背なら老けて見え、背筋が伸びていればそれだけで颯爽と感ずるもの。また、カジュアル過ぎる服装は出会いを軽んじている印象になりかねない。男性なら襟のある服やジャケットを、女性なら顔が明るく見える色の服装を選みたい。

四 趣味は料理が男女とも好印象

一緒に趣味を楽しみたいというニーズは高い。話のきっかけにしやすいのは旅行、これからの生活をイメージしやすく好感度が高いのは男女ともに料理だ。逆に、一人でしかできないことやお金のかかる趣味のみでは、引かれてしまう。

五 お酒の嗜好が合うか確認しておく

晩酌をする人と一切飲まない人では、食事にかける時間も、食費に占める酒代も、許容金額も大きく異なる。中年になって長年の飲酒習慣を変えるのは難しいので、嗜好が合うか、飲酒量が許容範囲かは、確認しておきたい。